

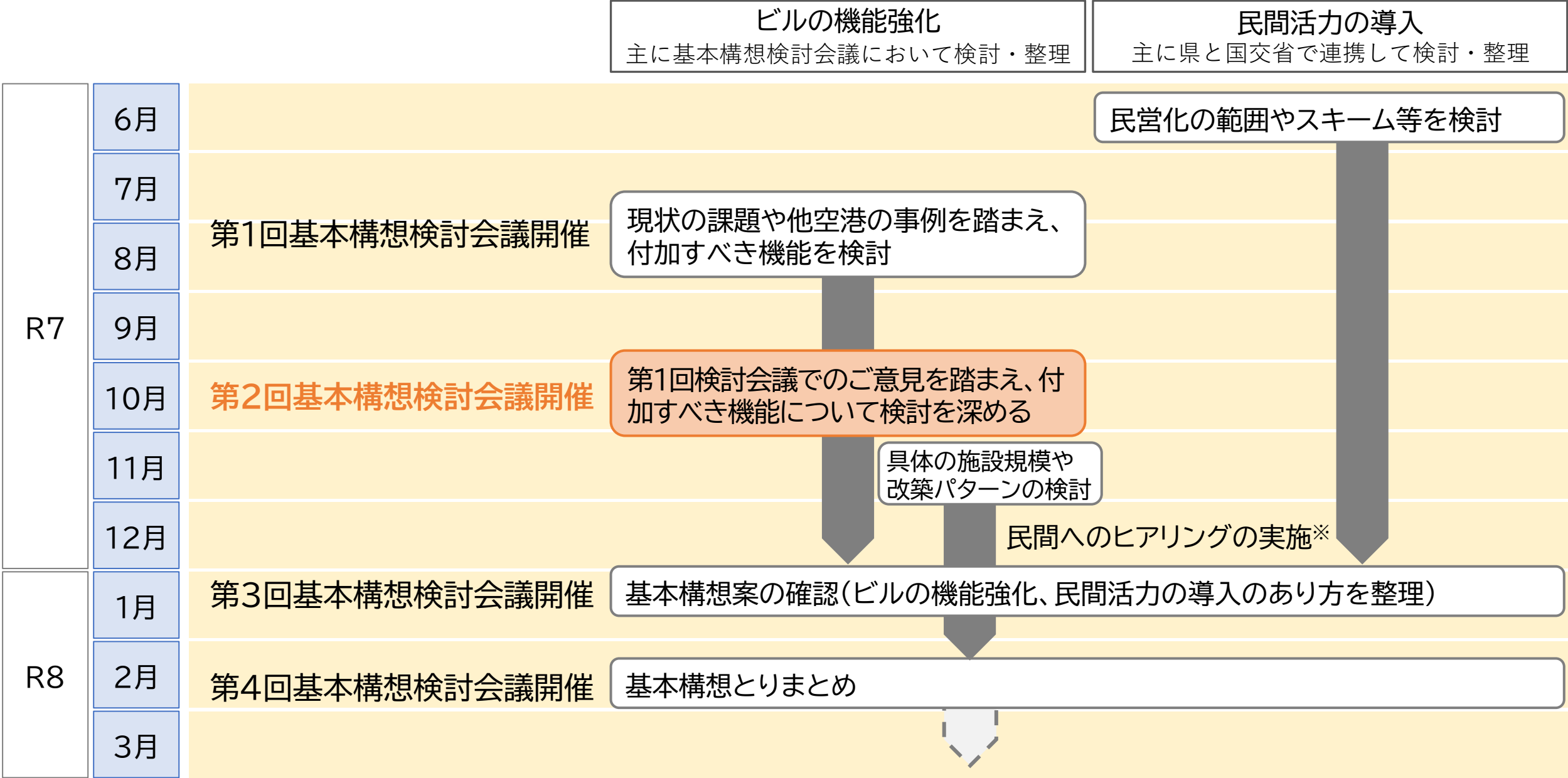
第2回小松空港ターミナルビル基本構想検討会議

令和7年10月30日

石川県 企画振興部 交通総合対策監室

空港企画課

策定スケジュール



※ビルの大まかな仕様、整備費、空港運営に係るスキーム等を提示し、意見聴取。民営化にあたっての課題を整理。

第1回検討会議においては、ターミナルビルの機能強化に関して、下記の議題をご議論いただいた。第2回検討会議においては、引き続き下記の議題について、いただいたご意見を踏まえて、検討を深める。

議題1 空港利用者の利便性、快適性を高める上で必要な機能強化の内容

- (1) 需要予測を踏まえた施設整備の方向性を整理 P3
- (2) 利用者の利便性を向上させるための設備に係る検討 P6

議題2 空港を核とした賑わいの創出を図る上で必要な機能強化の内容

- (1) 賑わい創出に向けた機能強化の具体的なイメージを整理 P7

(1) 需要予測を踏まえた施設整備の方向性

第1回検討会議でいただいた主なご意見

- ・ 国際線エリアが狭隘化しており、旅客機が同時に2便離着陸した場合に相当な混雑が発生していることは大きな問題と認識している。
- ・ CIQの円滑な業務遂行のために必要な施設を整備していただきたい。

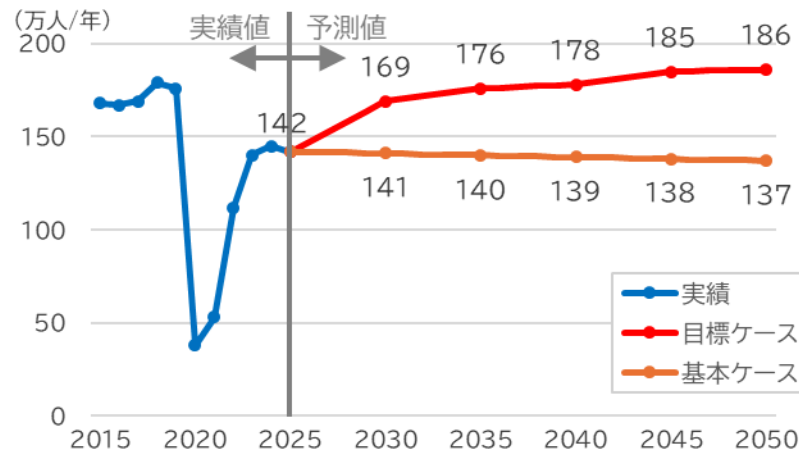
ご意見を踏まえた方向性

- ・ 将来需要予測を踏まえてピーク時の旅客数を推定し、ピーク時において旅行者が快適に過ごすことができる施設規模を確保する。

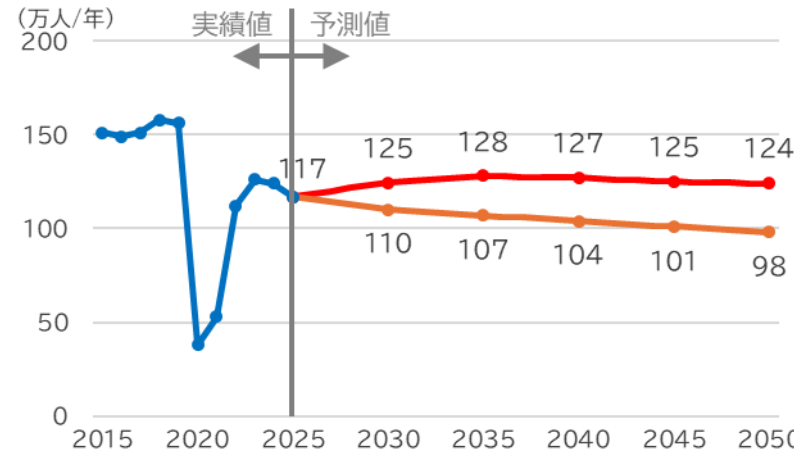
小松空港の将来需要の予測

- 2050年度までの小松空港の需要を、基本ケースと目標ケースの2種類の将来条件を設定して予測。
- 2050年度の旅客数は、国内、国際合わせた目標ケースの旅客数は、186万人(同+28.3%)と予測。
- 国内線は人口減少の影響を受け、目標ケースでは約124万人(2024年度と同数)と予測。国際線はインバウンドの増加により、目標ケースでは約62万人(2024年度比+195.2%)と予測される。

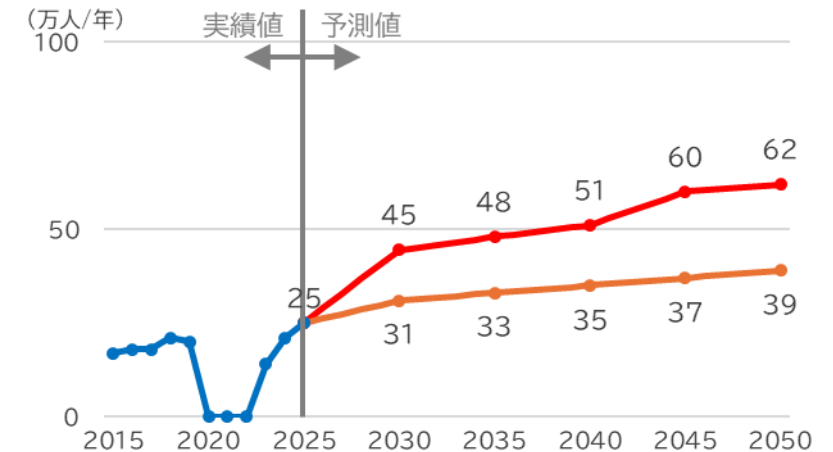
<将来需要予測> 国内線+国際線



(国内線)



(国際線)



<将来条件>

	基本ケース	目標ケース
国内	➢ 将来人口を国立社会保障人口問題研究所の予測値で設定。	➢ 将来人口を石川県・福井県の目標値で設定。 ➢ 既存路線の増便や、中国地方、東北地方の空港間での路線開設を想定。
国際	➢ 訪日外国人、出国日本人を海外人口・GDPとの相関関係に基づき予測。	➢ 訪日外国人を2030年に政府目標6,000万人の達成を前提に予測。 ➢ 日本人出国者数が2030年にコロナ前水準まで回復することを想定。

小松空港におけるピーク時旅客数と施設整備の方向性

- 将来需要予測に基づき、1時間当たりのピーク時便数とピーク時旅客数を推定。
- 1時間当たりのピーク時便数については、国内線は小型ジェット機2機とプロペラ機1機の同時離発着が想定され、国際線は小型ジェット機2機の同時離発着が想定された。
- 1時間当たりのピーク時旅客数については、国内線は347人と推定され、既存施設に余剰がある一方、国際線は288人と推定され、既存施設では施設規模が不足することが見込まれた。

○需要予測に基づく便数

国内線 (便/日)

国際線 (便/週)

	2024	2050			2024	2050	
		基本	目標			基本	目標
羽田	10	8	8	ソウル	3	4	4
札幌	1	1	2	上海	3	5	6
福岡	4	5	5	台湾	9	13	16
那覇	1	1	1	香港※3		4	5
東北地方			2※1	タイ			4
中国地方			2※2	ハノイ			3
合計	16	15	20	合計	15	26	38

※1 週4日×2往復を想定

※2 週5日×2往復を想定

※3 2025.4.24に3便/週で運航開始

(25.1.8～3.28一時運休予定)

○1時間当たりピーク時便数

	小型ジェット機 (737等)	プロペラ機 (ATR等)	合計
国内線	2便	1便	3便
国際線	2便	0便	2便

○1時間当たりピーク時旅客数

	令和7年6月	将来規模
国内線	360人	347人
国際線	288人	288人

※座席利用率80%として算出

※令和7年6月のピーク時便数は

国内線：中型ジェット機1便

小型ジェット機1便

国際線：小型ジェット機2便

将来のピーク時旅客数は、国内線については、現状からやや減少する一方、国際線は現状が維持される見込み。
ビルの施設規模は現状において、国内線では余裕がある一方、国際線は狭隘化が大きな課題となっている。

施設整備の方向性

国内線エリアについては、施設の配置を工夫することでコンパクトにしつつも利便性を高め、国際線エリアについては、施設の拡張により課題となっている狭隘化を解消するものとする。

(2)利用者の利便性を向上させるための設備

第1回検討会議でいただいた主なご意見

- 人手不足の中で、DXを積極的に取り入れて業務を効率化していくという視点も重要
- 飲食店の充実により、旅の最後に空港でゆっくり過ごそうという動きが期待できるのではないか。

ご意見を踏まえた方向性

- 空港業務における省人化・省力化や、FAST TRAVELによる旅行者の利便性向上の観点から、空港ビル運営主体や航空会社等、関係者連携の下、DXを推進していく。

<整備イメージ>



多言語化に対応した案内デジタルサイネージ



自動チェックイン機



自動手荷物預入機



スマートレーンX線検査機器

- 保安検査通過後にゆっくりくつろげる飲食店、ラウンジを充実させる。

(1)賑わい創出に向けた機能強化の具体的なイメージ

第1回検討会議でいただいた主なご意見

- ・ イベントに利用できる施設を整備するなど、観光客も地元の人も楽しめる施設にして欲しい。
- ・ 飲食店の充実により、旅の最後に空港でゆっくり過ごそうという動きが期待できるのではないか(再掲)。
- ・ 賑わい施設の整備は、費用対効果をきちんと考えていくことが必要。
- ・ 航空プラザは土日賑わっており、賑わい創出の観点で活用できるのではないか。
- ・ 空港施設の整備にあたっては、アリーナ構想や防災庁分局の誘致など、未確定な部分があるにせよ整合性を図ることが必要。

ご意見を踏まえた方向性

- ・ 賑わい創出に向けた機能強化については、第1回検討会議で確認した方向性を踏まえ、具体のイメージを整理する。
- ・ 現段階で整備主体は未定であるが、具体の整備内容の検討については、民間の知見や提案を最大限活用するとともに、費用対効果や周辺施設との相乗効果も勘案して決定されることが不可欠であり、引き続き関係者間で連携して進める。

<第1回検討会議で整理した機能強化の方向性>

- ① 保安検査通過後も有意義に過ごせる機能の付加
- ② 飲食・物販施設の充実
- ③ 空港への来訪を目的化する機能の付加
- ④ 地域を学び、地域の魅力を体感できる機能の整備

賑わい創出に向けた機能強化のイメージ

- ① 保安検査通過後も有意義に過ごせる機能の付加
保安検査通過後にゆっくりくつろげる飲食店、ラウンジを充実させる(再掲)。

現状	機能強化のイメージ
- 国際線の保安検査通過後の商業施設は免税売店のみ - 飲食店がなく遅延発生時に食事をとることが出来ず不都合	保安検査通過後も搭乗直前まで時間を気にせず楽しめるよう、制限エリア内に飲食店、ラウンジを設置すること等が考えられる。
- 国内線は保安検査通過後の制限エリアに、航空会社のラウンジが設置されている。 - 物販施設は喫茶、土産物販売店舗があるが、小規模である。	制限エリア内の飲食・物販施設を充実させること等が考えられる。

- ② 飲食・物販施設の充実
魅力ある施設を整備し、ニーズを踏まえたテナントを誘致する。

現状	機能強化のイメージ
ご当地ならではの食の提供が限定的	旅行の最後に北陸の味覚を堪能できるよう、寿司や海鮮など、北陸ならではの食の強みを活かした店舗や人気のローカル店舗を誘致すること等が考えられる。
ニーズの高いコンビニが設置されていない。	コンビニなど利用者の利便性向上につながる店舗を誘致すること等が考えられる。

賑わい創出に向けた機能強化のイメージ

③ 空港への来訪を目的化する機能の付加 滞在・体験型施設を整備する。

現状	機能強化のイメージ
航空利用者以外の者が楽しめる施設が限定的	多目的エリアを整備し、様々な交流イベントを定期的に開催すること等が考えられる。 ※他空港では足湯の設置や展望デッキの充実などの事例があり、民間事業者からも意見を聞きながら整備の大まかな方向性を検討していく。
小松空港と航空プラザとの間の流動が限定的であり、日本海側唯一の航空博物館が隣接している強みが活かされていない。	航空プラザと空港との間で、相互の流動を生み出す仕掛け作り(例:連携したイベントの開催)に取り組むこと等が考えられる。

④ 地域を学び、地域の魅力を体感できる機能の整備 地元特産品の魅力に触れて味わえる、展示・販売ブースを設置する。

現状	機能強化のイメージ
伝統工芸品や日本酒、和菓子の販売や、空港での伝統工芸品の展示がされているが、魅力発信の機能は限られている。	石川の強みである伝統工芸品や日本酒、和菓子の魅力に触れるとともに、学びの機会ともなる展示販売ブースを設置すること等が考えられる。 ※他空港では地元特産品の専門店や銘菓の実演販売などの事例があり、民間事業者からも意見を聞きながら整備の大まかな方向性を検討していく。

その他第1回検討会議でいただいた主なご意見と方向性

主なご意見	ご意見を踏まえた方向性
• 建築費の高騰が著しく、動向を注視していくことが必要。	• 建設費の高騰が全国的な課題となる中、費用対効果や整備に要する工期も勘案して、整備の方向性や工事手法を検討する。
• 防災拠点としての機能強化という視点も必要ではないか。	• 災害発生時において、石川県地域防災計画や小松空港A2-BCP(空港における業務継続計画)を踏まえた防災拠点としての機能を発揮できるよう、関係機関連携の下、整備を進めていく方向性を基本構想に盛り込む。
• 全国的に国内線の収支が厳しい中、機能強化に係る費用負担についてはエアラインから理解を得られる形で整理する必要があるのではないか。	• 機能強化を実施した後の費用(家賃)負担のあり方は、空港ビル運営主体と航空会社との協議により決定されることを想定。
• ビル改築のスケジュール感を整理すべき。	• ビル改築のスケジュール感は、空港運営のあり方にも左右されるため、今後、国とも連携を図りながら、プロセスや工程を精査していく。